



訪れる人の記憶に残るまちづくり

兵庫県三木市 三木城下町まちづくり協議会





神戸市中心部から神戸電鉄で約45分、風情豊かな城下町、三木市を訪れる。街の中心にある三木城跡に上ると、厳かな正装の方が集まり静謐な空気に包まれていた。三木市では毎年5月5日に、戦国時代にこの地を治めていた別所長治公を偲ぶ日として歌碑祭が開かれる。長治公は秀吉により兵糧攻めを受け、飢えに苦しむ領民を救うため、自らの命を引き換えに辞世の句を残し自決して開城した。この「三木合戦」で荒廃した町の復興に集まった大工職人の中から鍛冶職人が登場し、今日の金物のまち・三木の発展につながったと言われている。

5月5日の子どもの日、三木市のナメラ商店街周辺を会場に「小さなレトロロヂ」が開催された。「レトロロヂ」は「レトロテイストあふれる路地裏」からの造語だ。今年はコロナ禍以来3年ぶりに「小さな」開催で復活することとなった。

会場となるナメラ商店街入口にある駐車場には、旧車運転同好会によるレトロカー16台が展示されていた。1961年式のレトロカーに触れ、エンジンルームだと思ひ手をかけてみると実は前開きのドアで、現代にはない自由な発想に驚かされる。11時と15時からは、ちんどん屋さんが商店街を練り歩く。観客からは「竹に雀」などリクエストも入ったりと、子どもたち以上に年配者が喜びを隠せない様子だ。この他にも「彩画堂アートユニット」による肖像画などの企画が盛り込まれた。レトロカー16台がナメラ商店街を実走しフィナーレとなった。「レトロロヂ」は昭和レトロな雰囲気が残るナメラ商店街をはじめとする街並みを歩いてもらおうと、三木城下町まちづくり協議会(会長・米澤修二さん)が2013年から毎年開催。イベント・交流部会長の井上章二さんが中心となって企画してきたイベントだ。商店街や地域住民の協力を得ながら、緑日・

屋台村、昔懐かし骨董市、昭和子ども遊びなどの多くの催しが行われ、ミゼットのCMでも有名なコメディアンの大村崑氏を招くなど、大盛況になる行事として広く知られるようになった。2018年にはテレビ番組の収録もあり1万人近くの観客が訪れ、火災で焼失した神戸電鉄三木駅への義援金が集まるなど、三木への想いを寄せるファンが増えている。同時にロヂウラタンサクマップや、ロヂウラの情報マガジンを発行し、街の魅力をアピールしている。

こうした商店街の「レトロ」な雰囲気づくりに、多くの方の協力が得られるのはなぜだろう。井上さんは「信頼する人に任せてその人の創造性を大切にしている」ことを挙げる。

三木城跡ふもとの商店街は、地元の人に親しまれ賑わっていたが高度成長期以降の車社会の進展により衰退し、人通りが少なくなってきた。歴史のある街並みに賑わいを取り戻そうと、平成14年に同会は城下20の自治会が母体となって誕生した。

歴史街道沿いの路地裏に残る歴史や文化を見直すとともに、記憶に残るまちづくりを意識して、三つの部会(歴史・文化、自然・都市環境、イベント・交流)による活動に取り組んでいる。歴史・文化部会では、地域の方を対象とした三木の歴史勉強会やのれん事業、まち歩き探検の実施など。自然・都市環境部会では三木の自然を活かした養蜂事業など。イベント・交流部会では、「レトロロヂ」の実施や情報マガジンの発行などを行っている。

協議会全体として取り組む「歴史街道の景観維持」については、15年以上続けてきた実績のある活動だ。同会の事務局メンバーをはじめ、地元自治会、行政の協力



により「湯の山街道」など2地区の三分の二以上の住民の賛同を得て、「三木歴史街道芝町・平山地区景観形成等住民協定」が成立し、平成27年には兵庫県で初めての景観形成等住民協定指定地区になった。景観形成助成制度を活用して改修した建物も徐々に増えてきており、現在検討中の改修計画もあるそうだ。

レトロゾの翌日、同会事務局長の赤松篤さんに案内してもらい、白壁と格子が軒を連ねる「湯の山街道」と「ひめじ道」を訪れた。

湯の山街道で「鮑製作所」を営む山本さんは先述の助成制度を活用して改修。外壁の黒い「焼き板」を替えるなど、自分の親が建築した当時の姿にしたいという思いを実現したそうだ。「花屋ぼたん」を営む三枝さんご夫婦は、築150年以上の改修された町家に、昨年生花店をオープン。お店を通じて街道の魅力を若い人にも知ってもらえたらと話す。もう一つの街道「ひめじ道」に入ると、道路に対して斜めに建つ建造物が目に入る。これは敵を物陰から討つために作られたもの。街並みの一つ一つに、人の想いや歴史的な意味が込められていることを感じる。

同会が活動をはじめた約20年。会長の米澤さんは「地域で生まれ育ったものとして、恩返しをしていきたい。人材を育て、若い人がまちづくりに参加できるような工夫をしたい」と話す。

訪れる人の記憶に残る三木のまちづくりは、この街で暮らす人の心に息づく歴史から生まれてくるのかもしれない。

【連絡先】

三木城下町まちづくり協議会(問い合わせURL)
<https://www.mikimachikyo.org/inquiry.html>